

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(3)－文字研究術語集の構築－(jrp000283)」2025 年度第 1 回研究会

日時：令和 7 年 6 月 7 日（土曜日）午後 13 時 00 分より午後 17 時 00 分、令和 7 年 6 月 8 日（日曜日）午後 10 時 00 分より午後 16 時 00 分

場所：304 室&オンライン

報告者名（所属）

6 月 7 日（土曜日）

1) 澤田英夫（AA 研）

緬甸館雑字データベースの構築：紙媒体データベースの電子化の一例

本データベースは、中国で作られた緬甸語・漢語対訳語彙集『緬甸館訳語』（明代）・『緬甸訳書』（清代）を扱った研究文献である西田龍雄(1972)『緬甸館譯語の研究』の第 3 章「緬甸館雑字」の緬甸語 A/B、および、大野徹(1967)「華夷訳語緬甸館雑字の語釈：ケンブリッジ大学蔵本を中心として」の緬甸語(B)に関する内容を、検索可能なデータベースの形でオンライン公開するものである。「緬甸館雑字」と総称される原資料の概要・資料的価値・構成、両研究文献の概要・データ項目、DB の特筆すべき機能（転写方式の選択・入力補助・他レコードの参照など）、研究文献を DB 化するに当たって問題となる点などについて述べた。

2) 全員

文字研究の術語に関する討議(1)

荒川が提議した「文字の習得と使用者」「複数の文字の使用」について、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。

6 月 8 日（日曜日）

3) 荒川 慎太郎（AA 研）

西夏文字の「中央部要素」再考

西夏文字の「左右要素重複字」の間に入る要素の中には、「左右を均等にする」のように明らかな意味機能を有する「縦線」などがある。報告者が「間（かん）」と呼ぶ、こうした「中央部要素」は西夏文字独特の偏旁と呼べるかもしれない。ただし、一見中央部要素のように見えるものも、X 型) ab という既存字+a という派生字、Y 型) a+ba という既存字という派生字、Z 型) aa という既存字の間に b を挿入、あるいは a, b, a から成立させたと思われる字、の 3 つに分類できる。今回それら全てを調査した結果からは、Z 型の中でも「分割する」のような機能を持つ要素は限られており、ほぼ縦線 1 種であると分かった。

4) 全員

文字研究の術語に関する討議(2)

前日に引き続き、「文字の習得と使用者」「複数の文字の使用」について、ベトナム、シュメールの事例などについて説明が行われ、討議が継続した。

今年 10 月に AA 研で開催予定の、国際 WS に関する相談も行った。